

能登町文化財レスキュー^{ニュース}-News

第12号 発行日：令和6年10月25日 編集・発行：能登町教育委員会事務局文化財係

「文化財レスキュー」とは？

地震などで被災した家屋などから、古文書や美術工芸品などの歴史・文化的な資料を救出し、安全な場所に一時保管するものです。能登町では元旦の震災を受け、国の機関である文化財防災センターや、民間団体と協力して救出作業にあたっています。救出後には、資料を町で一時的に仮保管し（保管期間を限定します）、今後の取り扱いについて所有者と協議します。

文化財レスキュー活動報告

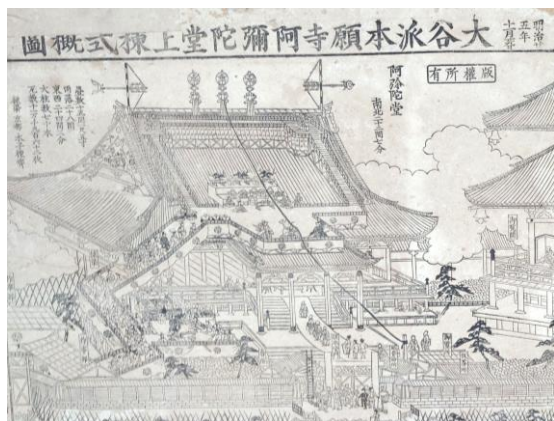
【10月17日 町内某家】

半壊認定を受けている土蔵に古い物があるというご相談を受けて、文化財防災センターから4人、町職員2人が運び出す作業を実施しました。

蔵から見つかったもので印象的だったのは、襖の裏に貼られた色鮮やかな引札です。引札は、明治から大正時代にかけて作られた広告で、宇出津の呉服屋や煙草商のものが見られました。そのほか、京都東本願寺の阿弥陀堂上棟式の図や高野山略図、明治25年（1892）の略歴などが貼られていました。



運び出した品物の中身を確認し、ホコリなどを除去している



色とりどりの引札が貼られた襖

現在のチラシや新聞を再利用する感覚で、襖の下地材（下張り）として貼られていたが、上に貼られていた上貼が剥がれたため、このように見ることができる

【10月23日 松波朝倉家】

松波の朝倉家は、江戸時代には、肝煎・山廻代官・御塩掛代官の諸役を勤めた家柄です。歴代が和漢の学に通じ、詩文、和歌、連歌をよくたしなみ、四書五経その他漢籍を教える上級寺子屋として規模も大きかったそうです。

所蔵品には、諸役に関する古文書類のほか、各種書籍、さらに俳句と俳画が描かれた歳旦帳さいたんちようが確認できました。さらに、近現代には呉服商を営んでおられたので、その会計帳簿がまとまって残されていました。また、先代のご当主は歴史学の研究に携わっておられたため、その研究成果も見られました。



古文書を梱包している様子



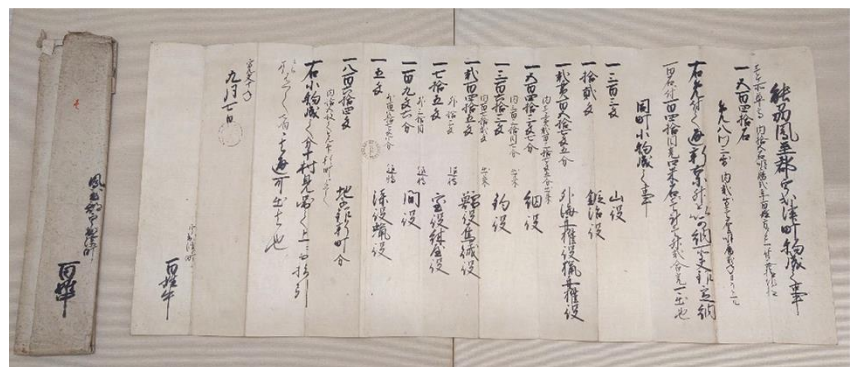
近代の大量の帳簿類

発見された史料解説

宇出津町御印

加賀藩では、慶安4年(1651)から明暦3年(1657)に改作法と呼ばれる藩政改革をおこないました。それまで家臣たちが自ら行っていた村々の支配権を藩が取り上げ、藩主の印が押された年貢割付状ねんぐわりつけじょう(徴税通知書)が各村に出されたのです。これが「村御印」で、石川県・富山県下の各自治会や旧村役人家には、寛文10年(1670)に改訂されたものが残されています。

宇出津の場合は「町」と呼ばれたため「町御印」と称され、宇出津町は草高くさたか(土地の生産高)540石で、年貢率は83%。このほかに、山役・鍛冶役・外海舟楫役・猟舟楫役・網役・釣役・鱈役・烏賊役などの小物成こものなり(農林水産物・鉱産物・運輸に課された税)を負担しており、当時の宇出津が漁業などで栄えていたことを物語っています。



本紙は町 HP からも見るができます

https://www.town.noto.lg.jp/www/info/detail.jsp?common_id=20872

